

図書館だより

第 12 号

1985. 7. 1 発行

編集兼発行 三重短期大学附属図書館 514-01 三重県津市一身田中野字蔵付157 Ⅱ 0592
32-2342

目 次

| | |
|-------------------------|----------|
| 法律文献検索の方法 (2) | 立石雅彦 (1) |
| 日本人と政治 | 平野孝 (2) |
| 出会い・図書館 | 三橋ゆき (4) |
| 日本図書館研究会研究大会に参加して | 井早悦子 (5) |
| 新規受入図書案内 | (7) |
| ベスト・セラーズ | (11) |
| お知らせ | (12) |

法律文献検索の方法

(2)

刑法の場合

立石雅彦 (法経科教授)

文献検索については、刑法でも特別のし方があるわけではない。前号で尾崎先生の書かれた方法に従えば、演習での報告、講義の予・復習、レポート課題等のための基礎的な資料を整えることができるだろう。そこで、連載の趣旨をいささか逸脱するかもしれないが、検索した文献の使い方を、刑法を例にとって、思いつくまま書くことにしたい。

刑法に限らず、法学ではしばしば具体的な事例が取り上げられ、法律上の問題点が検討される。法律は、具体的個別的なもめごとの解決のための手段の一つだから、こうしたやり方は、不可欠なのである。例えば、次のような事例はよく議論されるものの一つである。

【事例】 Aは、Bを殺害しようとして、ピストルをBに向け発砲した。ところが弾は

Bにあらず、たまたま押入れにひそんでいたCにあたり、これを死亡させた。Aの刑事責任を問う。

この事例は、方法の錯誤の場合である。事例が課題として与えられるとき、出題者としてはそこでおおよそどんなことが問題になるのか解答者には見当がついているであろう、と考えている。しかし、ごく少数であるが、提出されたレポートを読むと、何が問題なのかかわかっていないというものがある。基礎的な知識が不足しているのである。そこで、まず概説書を読めということを強調したい。

ここで『概説書』といっているのは、『教科書』、『体系書』と呼ばれているものも含む、刑法全体について広く記述されている書物のことである。『刑法』、『刑法講義』、『刑法概論』というようなタイトルが付けられ、通常『総論』と『各論』に分けられている。概説書は刑法を学び始めた早い時期に、最初から最後まで読み通してほしい。講義の際、お守りのように携えてきて、講義の進行に合わせてちらちらと目を通すだけでは、もったいない。理解できなくても、とにかく読み通すことである。読み通すことによって、個々の問題の全

体の中での位置がわかり、よりよく理解できるようになるだろう。特に刑法総論では、伝統的に体系的思考が目ざされ（近年問題的思考がかわれるが、体系的思考が重要でないわけではない）、ある問題について妥当な解決も、他の問題との関連で妥当でないこともあり得る。

概説書は、少くとも一冊、手元に置いておきたい。手元に置くことにより、いつでも読みかえすことができる。前読んだときわからなかったことでも、理解できることがある。講義は一度聞きのがしたらおしまいが、本は何度でも、自分のペースで読める。

概説書は、個別問題を考えるための道案内もしてくれる。上述の事例について、概説書を開くと、論点が整理され、この問題についての判例・学説が挙げられ、著者の見解が示されているだろう。その際注意すべきことは、方法の錯語の部分だけでなく、それと関連する部分も併せて読むことである。方法の錯誤については、錯誤論の中で扱われているだろう。錯語論は、故意論の中に含まれているだろう。故意論全体を読んでおくことが望ましい。

概説書を読んだだけで、上述の事例についてかなりの程度の議論が可能である。法定的符合説によればどうなるのか、具体的符合説によればどうか、それぞれについて、その解決は適切かどうか。事例を少し変えてみたらどうか。しかし、概説書は、刑法全体について満遍なく記述することを目ざしているから、問題の掘り下げがどうしても浅いものになる。概説書で得た知識によって自分で検討した結論を検証するためには、他の文献にあたる必要がある。幸い最近の概説書では文献の引用の豊富なものが多いから、それを手懸りにすることができる。一般的にいえば、概説書より詳しい記述のあるものとして、学生向けに出版されている演習・解説書がある。判例解説書も参考になるだろう。さらに立ち入って検討するためには、学術論文を読まねばならない。学術論文を読みこなすためには、相当の実力が必要だが、一つのテーマだけでよいから、一度は挑戦してほしい。

最後に、文献を読むにあたって、文献は思考の材料にすぎない、ということを強調しておきたい。文献には、『正解』が書かれているわけではない。上述の事例でも、『正解』はない。正解があれば、学説が並立するはずがない。ただ、より妥当な解決はあり得る。それをめざして、文献の助けを借りて、思考の努力を続けられることを期待する。

日本人と政治

平野 孝（講師）

2回の授業を終えてみて、学生諸君の新鮮な感覚を嬉しく思うと同時に、今の学生にとって「政治」というものはどうもとっつきにくいものらしいという実感を抱いている。かくいう私は、マスコミでいうところの、「団魂の世代」に属する。新聞などの世論調査で独特の政治意識を示す世代である。若者の政治的アパシーと保守回帰がとりざたされる今日と違って、「デモ」に出ないのは普通でないように思われていた雰囲気の中で学生生活を過ごした私達にとって、学ぶことと政治は直結していた。私が政治学を志ざした理由も、そうした時代状況と無縁ではない。政治的感覚の強弱が、その人間の生れ育った歴史局面に左右されるのはごく当然のことだろう。

しかし、ことは世代論でかたづけられるほど単純ではない。政治文化は、その国の民衆が、どれだけ、どのように政治とかかわってきた歴史をもっているかということと深いつながりがあるからだ。その意味では、学生諸君と私は世代と体験を異にしなから、日本人という共通の歴史の重みを背負っているわけだ。そして、この歴史の重みをどれほど実際に体験しえているかという点からすれば、私と学生諸君をへだてている10数年の歳月などはとるに足りないものであって、所詮共に追体験していくしかない代物なのである。

そんなことを考えながら、今日はオリエンテ

ーションをかねて、政治学を学ぶことの意味を述べてみようと思う。

冒頭のところで、「政治」は今日の学生にとってとっつきにくいもののように思われると述べたが、諸君は、「政治を疎外しようとするものは、政治によって疎外される」という有名な言葉があるのを知っているだろうか。

ごく簡単に言えば、政治に対して関心を持つとしめないものは、政治によって不利益をこうむるといった意味になろう。

諸君は、高校で歴史を学んだと思うが、有史以来、余剰生産物がなく食べるのに精一杯であった時代、従って、支配するものも支配されるものもいなかった時代を除いて、私達は、意識していようと意識していないとにかかわらず、政治にまき込まれ、その中で生きている、あるいは生かされている。つまり、ある時は目に見えない形で、またある時はいやおうなく目の前に立ちふさがり、身体と生活を拘束されるといった形で、政治というものにとり込まれている。

例えば、ダムをつくるから家を立ちのけといったふうに、公共の福祉の名のもと、昨日までの生活の変更を余儀なくされ、あるいは、今日の防衛論議の果てに日本にも徴兵制が施かれるといったとき、政治はそのむき出しの姿を私達の前にあらわしてくる。もう少し身近なところでいえば、核戦争の脅威はいまや全世界的規模で私達をおしつづんでいるし、先の国会でも焦点になったように、防衛費1%の枠がとり払われれば、とめどない軍備拡張によって私達の生活が圧迫されていくのは目に見えて明らかだ。

また、国鉄の値上げは、このところ毎年のように繰り返され、腹たしさを通りこして馬鹿馬鹿しさを感じさせるに到っているが、それが本格化したのは、国会の審議事項でなくなることからである。そして、その背景には、かつての高度成長時代の国の政策がある。新幹線等への設備投資は経済の主要な牽引車の一つとされ、それによって生じた累積赤字のつげが、国鉄職員と国民にまわされているわけだ。公社民営化に際して、電電公社や専売公社と比べ

鉄だけが打撃をこうむっている理由もこの辺にある。

少し視点をかえて、政治を歴史の流れの中でとらえてみよう。

諸君は、ドラクロアの絵を見たことがあるだろうか。三色旗を掲げる女性に引きいられた群衆が、あるいは傷つき倒れながら、あるいは武器をもってなにものかにどんでいるあの絵だ。ここで人々がいどんでいるのは、専制政治である。ドラクロアは、市民革命における民衆の姿を描いたわけだ。

今日、私達は、日本国憲法にもうたわれているように、集会、結社の自由、言論の自由、思想、信条の自由、などいくつかの政治的権利を保障されている。これらは、市民革命にみられるように、先人達の多年にわたる文字どおりの血と汗によって獲得されたものだ。日本でも、こうした諸権利は、治安維持法に象徴される戦前の暗黒政治と敗戦の体験をへて、その反省のうえに確立される。他方、日本の侵略行為によって、他国の民衆が受けた被害は、中国だけでも死傷者2,415万人に及ぶ。日本の政府が再び侵略戦争を行なわないようにするには、国民が政治的権利を獲得し、政府の動きを統制できるようにしなければならぬと考えられたのである。地方自治は「民主主義の学校」であり、国民が政治的訓練をつむための場であった。

にもかかわらず、日本での市民革命の完成ともみなされる戦後改革が、他国の主導で行なわれねばならなかったことに示されるように、日本にあっては、国民の政治的自覚化と行動は、欧米に比べて脆弱であったように思われる。刑事判決を受けた元首相が、政治の舞台でその後も大きな力もち続けるという、他国に例をみない異常な事態を許容していることにみられるように、あるいは、あきれるほどの諸物価の値上げと生活の切り下げを、不平をいっつも受け入れてしまっているように、私達日本人の政治意識は、いまだきわめて低いところにあるといわねばならない。その意味では、tax payer (納税者)の権利が広く自覚されている欧米に

比べて、日本は政治的後進国であり、経済の先進性と好個の対称をなしている。

明治維新以来、日本の政治は1回転しているといわれる。かつてと同じように、追いつけ追いこせを達成した日本は、諸外国の圧力の中であえいている。経済成長一本やりできた戦後の日本は、今また大きな政治的選択をせまられる時点に到っている。圧力を転嫁された国民は、どのような道を選択していこうか。私達日本人は、生活の窮迫を他国の人々に対する侵略によって解消しようとした歴史をもっている。

そして、他国への侵略は、生活破綻、数百万の戦病死、敗戦、そしてアメリカの核の傘の下での復興という形で私達自身のところへかえってきた。

今、日本の政治は、いつかた道を再びたどりようとしているように見える。私達は政治のなんたるかを知り、政治を自分達の手で動かしていくすべてを学ばねばならない。

(60年4月19日講義録加筆)

参考文献

○中国侵略について

本多勝一『中国の旅』朝日文庫

○高度成長のもたらしたもの

本多勝一『そして我が祖国・日本』朝日文庫

○保守長期政権を支えたもの

石川真澄『データー戦後政治史』岩波新書

出会い・図書館

三橋 ゆき

父の職業が灯台守という関係で、私は成長期をあちこちで過した。2、3年周期で転勤があり、海辺の見知らぬ町へと移り住む暮らしであった。たびたび引越さねばならず、生活用品もなるべく増やせない条件と、経済的に余裕がなかったことから、本を読むにはまず図書館を探し、

そこへ足を運ばねばならなかった。図書館はまた、本の提供のみならずそれぞれの雰囲気があった私を誘った。あの土地、あの人たちの思い出とともにそれらの図書館の情景が甦る。

中学入学の時、父は伊豆半島西海岸の田子という小さな漁村に転勤になった。

男たちは小さな船で遠く赤道付近までもカツオ漁に出かけ、女たちは段々畑に花を栽培する。花の時期には、グラジオラスやカーネーション、金魚草などが一面に咲き、太平洋へ続く海岸線に映えて美しいところであった。が、漁へ出れば「板子一枚下は地獄」である。毎年遭難者が出た。一家の働き手を失って、子供を網元へ養子に出したり、兄嫁が弟のところへなかつたりして複雑な家庭が多かった。その年にもクラスメートの父が船の事故で亡くなった。マストが折れて倒れ、頭蓋骨を割られて即死だった。頭部が柘榴のようにひらいて脳味噌がとび散ったと聞いて、深く沈みこんでしまった。

田子の図書館は、古い民家を改造したらしい青年会館の二階にあり、夜しか開かなかった。一階に卓球台が置いてある。その横の朽ちかけた階段をゆらりゆらり昇ったところの3坪か4坪の板間がそれで、壁ぎわの三面が本棚になっていて、勤めを終えた青年団員が運営している。その町にただよう荒くれた空気を子供なりに感じていたが、図書室の青年たちは人なつこく親切であった。そこは私たちにとっても、おそらく団員たちにとってもオアシスであったろう。私たちは一家で、風呂あがりの夕涼みをかねてしばしばそこへ出かけた。

中学後半には下田へ移った。

公園にベリーとハリスのレリーフがあり、「米使ベリーの来航に 鎖国の扉ひらかれて…」と校歌にうたわれている町である。5月の黒船祭には白人、黒人の水兵たちがやってきて、かんしゃく玉を投げ散らしては陽気な歓声をあげた。

中学校の校門の真向いに町立図書館があった。放課後には2、3人連れだつてほとんどそこで過した。高校入試を控えての勉強という名目であったが、そこで勉強したようには憶えていな

い。ダルマストーブがあかあかと燃える横でブッセやヴェルレーヌをつつき合ったり、男生徒の品定めにくつつを抜かしていたように思う。クラスに一人まじめな友がいた。夜おそくまで計画的に勉強していると聞いて彼女をひっぱりこもうと誘うと、慌てもせず、

「いいよ。ゆりべは予定よりはかどったから10分だけつき合っただけあげる。」

10分だけ！ 悪企みはうまくかわされて、不まじめ組はあっけにとられてしまった。20年前にも勉強する人はしていたのである。

日本図書館研究会

研究大会に参加して

井早悦子（司書）

第26回日図研究大会は2月21日、22日、雪模様の京都衣笠の末川博記念館で開催された。立命館大学で永く総長をつとめ「わだつみの像」などで知られる同博士を記念してつくられた建物はまだ新しく、こじんまりとして、静かな環境にあり、研究大会の場所としては申し分なく、2日間に亘り熱心な研究・討議がくり広げられた。

報告に入る前に、日図研の概略について紹介しておきたい。この研究会は1946年11月に結成されて以来長い歴史をもち、図書館学の研究団体としては我が国で最大の規模をもっている。事務局は天理大学図書館学研究室におかれているが、全ての館種がその中に参集し、その設置の目的を「図書館学の研究とその普及発展をはかると共に、会員相互の親睦をあつくる」とし、機関紙として「図書館界」を隔月に発刊している。地区別、職域別等のグループ研究を日常活動として位置づけ、その成果を研究大会で発表するというシステムをとり、制度的研修とともに、図書館員として欠くべからざる自己研修の場として積極的な役割を担っている。

大会の第1日目は、理事長森耕一氏の挨拶に続き、グループ研究発表が7件あった。以下列

記すれば、

1. 目録規則構造の基礎的研究—記述構造を中心に—（整理技術研究グループ）
2. メディアの多様化と図書館サービス、マネージメントの問題点（奉仕研究グループ）
3. Hagler and Simmons 著『The Bibliographic Record and Information Technology』とアクセス・ポイント（ライブラリー・オートメーション研究会）
4. 他館から借りて提供した資料の実態—大阪府下の公立図書館において—（大阪府・図書館ネットワーク検討委員会）
5. 公立図書館における蔵書構成のあり方について（読書調査研究グループ）
6. 保存図書館（デポジット・ライブラリー）に関する調査報告（専門図書館関西地区協議会）
7. 学校図書館の機能と司書の役割を考える—岡山県下の学校図書館調査より—（学校図書館を考えるつどい実行委員会）

第1日目の研究発表は内容が豊富であり、それぞれの研究が図書館における今日的なテーマを扱っており、単に机上の研究にとどまらず、現場での状況を充分ふまえたもので充実したものであった。ただ1件あたり30分という発表時間の制限があり、今一つ具体的な内容に踏み込めない箇所もあったが、それらについては、機関紙である「図書館界」誌上で補充したうえ掲載される予定であるので、それを待つことにして、個々の内容についての報告は誌面の都合もあり割愛したい。

第2日目のシンポジウムは「再び、日常活動における「図書館の自由」を考える」というテーマ設定であった。これについては、当館発行の「図書館だより」第11号「図書貸出手続きの変更にあたって」と関連があり、少し詳細に報告したいと思う。

まず、研究委員長伊藤氏より、テーマ設定の趣旨説明が行われたが、その中で氏は、昨年10月の全国図書館大会に於て採決された「「図書館の自由」の実践を強めることを求める決議、

とも関連して「自由宣言」(資料収集の自由、資料提供の自由、利用者の秘密を守る、すべての検閲に反対する)が、図書館員共通の認識として存在し、日常業務の中で指針として作用しているか、もう一度問いなおすことの重要性を説かれた。そのあと、公立図書館2館、大学図書館、高校図書館それぞれ1館より、各現場における「自由」への具体的な取組みについての事例発表が行われた。

まず、公立図書館での事例として東京の入広図書館のちばおさむ氏は、図書館運営方針の基本として「図書館の自由に関する宣言」と「図書館員の倫理綱領」があり、全館員がそれに向けて共通の認識をもつために話し合いの機会を多くもっていること。新任研修でも重点的に取り上げており、図書館で働く全ての人々、正規の職員であろうと、パート採用であろうと同じように研修を行い認識を深めた上で、公平、自由、プライバシーを守ることを日常業務の中で実践しているということ。また、住民にも広報活動で読書、利用の秘密を守ることを積極的に知らせているということ。そして、そんな中でも『自由を守る』ということは、至難のわざと思わざるを得ない程日々新しい事例に突き当たり、日常業務のすみずみに気配りが必要なことを、各種申込書類や催促状などを例に挙げてのべられた。

神戸大学図書館の鍵本氏からは、大学図書館の現場からの報告があったが、限られた利用者をサービス対象としているため「自由」に関する取組みは公立図書館ほどではなく、各館によって取組みに大きな差があることがわかった。大学図書館に於ては、国立大学を中心に学術情報システムがすでに稼働しており、コンピューター導入に伴う利用者のプライバシーの保護への取組みが確立されないままのスタートであり、貸出業務や情報、検索へのコンピューター導入の際の利用記録名残存等、今後の課題は大きい。鍵本氏が調査した大学、短大図書館の28館について利用記録の残存状況をきいた結果12館が何らかの形で残っていると答えて

いる。

次に西宮市の高校司書の上居さんより、学校図書館の苦しい状況が報告された。前二者の報告は「自由」のうちでも利用者のプライバシー保護に重点が置かれたきらいがあるが、学校図書館の場合、既にマスコミで取り上げられているように、愛知、千葉の禁書問題をかかえており、「資料収集の自由」「資料提供の自由」「検閲に反対する」という観点からの切迫した内容の報告となった。冒頭、毎日テレビのニューススコープでの禁書問題特集と朝日ジャーナル誌上に於いて取りあげられた「レーガンのアメリカ・草の根に広がる禁書」という記事を取り上げ、学校図書館を取りまく厳しい状況が報告された。学校図書館の場合「図書館の自由をはばむ諸条件として、1 資料の絶対的不足、2 司書制度の不備、3 学校図書館の組織上の運営体制の弱さ、4 現在の学校教育の置かれている好ましくない方向、があり、その中で司書として、生徒のみならず、教師に向けても「図書館の自由」を広く知らしめる努力をしており、また、「読む自由」を保障するためには、余りに少ない予算額であることを取り上げ予算獲得のための努力をしていることが語られた。小・中・高校各段階に於ける図書館の自由教育をという提案は、短大図書館に働くものとして充分納得のゆくものであった。

最後に名古屋市立図書館の中村氏から部落問題の側面からというテーマで話があった。名古屋市では自由の問題にかかわって、既に「ビノキョ問題」^(註)を経験し、それに取り組んできた実績をもっており、行政組織の一員としての図書館の可能性と限界を具体的に例示された上で、同市立図書館に於ては所蔵図書に対して、内容、表現上の問題等で苦情の申し入れがあった時は、1 図書館職員全体で討議する。2 当事者の意見を聞く。3 広く市民の意見を聞くを三原則として、人権差別の解消、表現の自由、読む自由の間の調整に向って徹底した話し合いを基本方針に据えながら、図書館が主体的にかかわって行くという明確な姿勢を打ち出してお

り、具体的な組織としては、各館、各係から選ばれた館内委員が作られている。委員会は権限は一切もたず、世話役だけに徹し、全員の同意をを最優先するということであった。

以上のような報告の下にそれに対する質疑応答、具体的な事例を挙げての質問等が出され、予定時間を延長して熱心な討議が繰り返された。そのあと短かい時間をさいて広島県立図書館より昨年8月に起った蔵書破き事件の経過説明があった。山口図書館図書封印事件(№11に掲載)が起ったのが、1978年8月であり、それを充分な教訓として「改訂自由宣言」を作成し、その後の活動の指針としている図書館においてまさに、浜の真砂は…の感はまぬがれない。

「自由」の問題を考える時、図書館をとりまく状況は決して良いとは言えず、むしろ厳しさを増しているといえるし、コンピューター導入に伴うプライバシーの保護等、今後難問が山積している。そういう状況をふまえると共に私達図書館員の中にある日常業務の中でのなれあい、惰性、事なかれ主義、偏見等について、常に自己をみつめながら、日常業務に臨まなければならない。「図書館の自由宣言」は、私達にとってたんに抽象的な言葉ではなく、正に全身中に溶け込まさなければならない命題であることを改めて認識しつつ、2日間の日程を終え、京都を後にした。

② 1976年11月名古屋市の市民団体「『障害者』差別の出版物を許さない、まず『ビノキオ』を洗う会」が、「ビノキオ」は障害者を差別する内容が含まれているとして、出版社に回収をするように要求した。名古屋市図書館の幹部はこの時点で「ビノキオ」を事務室に引揚げられるように指示した。この回収をめぐる、障害者に対する図書館奉仕の実態と理念、図書館の自由とのかかわり、「障害者差別をなくす」という課題と図書館の在り方について、広く論議をよんだ。

新規受入図書案内

総記(000)

- 朝日新聞縮刷版 1984. 1~3
 スコットランドの小さな学校 (新書 黄 257) 野村 庄吾
 日本の国鉄 (新書 黄 256) 原田 勝正
 人間 過去・現在・未来 (新書 黄 50) L. マンフォード
 高度情報化社会事典 片方 善治
 知識の組織化と図書館
 もり・きよし先生喜壽記念会
 20世紀思想家文庫 12 宮崎賢治 見田 宗介
 講座 情報と図書館 2 河野 徳吉
 軍事化される日本(ブックレット №30)
 「世界」編集部
 記号論への招待(新書 黄 258) 池上 嘉彦
 靖国神社(新書 黄 259) 大江 志乃夫
 科学の哲学(新書 黄 260) 柳瀬 陸男
 ニューメディア研究 井上 宏 他
 ニューメディアと著作権 播磨 良承
 Grand Dictionnaire Encyclopédique Tome 6
 私たちののぞむ教育改革(ブックレット №31) 大田 堯
 新PTA読本 永畑 道子
 20世紀思想家文庫 13 デュシャン
 宇佐見 圭司
 第四折々のうた(新書 黄 261) 大岡 信
 中学教師(新書 黄 262) 太田 昭臣
 尾瀬 山小屋三代の記(新書 黄 263) 後藤 允
 出版年鑑 1984 出版年鑑編集部
 世界年鑑 1984年版 共同通信社
 現代図書館学講座 1~11, 別巻 小野 泰博 他

哲学・宗教(100)

- ヤスパース選集 1~17, 19~33, 36, 37 カール・ヤスパース
 世界宗教史叢書 1~9, 11, 12 半田 元夫 他
 バルトとマルクス 滝沢 克己
 あなたはどこにいるのか 実人生の基盤と宗教 滝沢 克己

論考・人間になること 飯島 宗享
 偶然・愛・論理 チャールズ・S・パース
 世界の名前 奈美 境六
 ショルジ・ルカーチ 生きられた思想
 イシュトヴァーン・エルシ
 親鸞と浄土 星野 元豊

社会科学(300)

司法省日誌 5~8 日本史籍協会
 現代行政法大系 2, 10 雄川 一郎 他
 La théorie des obligations; Droit privé
 économique 1979 R. Savatier
 Les personnes, La famille, les incapacités
 5. éd A. Weill
 La justice et ses institutions 1982
 J. Vincent

歴史(200)

世界各国便覧叢書〔アフリカ編〕ナイジェリア
 共和国 在ナイジェリア日本国大使館
 世界各国便覧叢書〔アジア編〕香港・マカオ
 外務省アジア局中国課
 世界各国便覧叢書〔アジア編〕インドネシア共
 和国 外務省アジア局南東アジア第二課
 世界各国便覧叢書〔アジア編〕インド
 在インド日本国大使館
 世界各国便覧叢書〔西欧編〕スウェーデン王国
 ・フィンランド共和国 在スウェーデン日本国大使館 他
 世界各国便覧叢書〔西欧編〕英国
 在英国日本国大使館
 世界各国便覧叢書〔アジア編〕タイ王国
 外務省アジア局南東アジア第一課
 世界各国便覧叢書〔ソ連・東欧編〕ソヴィエト
 社会主義共和国連邦
 外務省欧亜局ソヴィエト連邦課
 世界各国便覧叢書〔アジア編〕スリランカ民主
 社会主義共和国・バングラデシュ人民共和国・
 モルジブ共和国 在スリランカ日本国大使館 他
 世界各国便覧叢書〔中近東編〕サウジアラビア
 王国, オマーン国, イエメン民主人民共和国,
 イエメン・アラブ共和国
 外務省中近東アフリカ局中近東第二課
 日本歴史地理用語辞典 藤岡 謙二郎 他
 風土の構造 鈴木 秀夫
 現代地理学の論理 ポール・クラヴァル
 頂の中の地図 ピーター・グールド 他
 生態地理学 野間 三郎 他
 みえの新風土記 ふるさと紀行 三重県
 改訂新版 海外生活の手引第18~20巻
 西欧篇 I~III 外務省情報文化局国内広報課
 あふりか アフリカ 外務省情報文化局
 歴史の舞台 司馬 遼太郎
 資料日本現代史 10 吉田 裕 他
 西欧世界と日本 上, 下 G. B. サンソム

Introduction générale 1979
 A. Weill 他
 Les obligations 1980 A. Weill 他
 Droit social international et européen
 1980 G. Lyon - Caen
 Droit public économique 1979
 A. de Laubadire
 Droit commercial; Groupements commerciaux
 R. Rodière
 Droit penal international 2. éd. 1979
 C. Lombois
 Actes de commerce et commerciale et concurren-
 ce 7. éd. 1980 R. Houin 他
 Droit commercial européen 4. éd.
 B. Goldman
 Droit maritime. 9. éd. 1982
 R. Rodiere
 Droit pénal spécial R. Vouint
 Droit administratif; L'expropriation pour
 cause d'utilité publique, l'aménagement
 du territoire, l'urbanisme et la constru-
 ction 4. éd. J. M. Auby 他
 Droit administratif 10. éd. J. Rivéro
 Droit international Privé 1980 2. ed.
 Y. Lousouarn
 Voies d'exécution et procédures de distri-
 bution 1981 J. Vincent
 Les successions, Les libéralités 1. ed.
 1982 F. Terre 他
 Droit des assurances Y. Lambert - Faivre
 Droit de la sécurité sociale 1982
 J. J. Dupeyroux
 Les biens 2. éd. A. Weill
 Marx Engels Gesamtausgabe Bd. 2/5
 Marx Engels
 Local Government in Britain and France
 J. Lagroye 他
 日本の所得と富の分配 石崎 唯雄
 マネーサプライと金融政策 大久保 隆

久山町長の実験 大谷 健
 戦後日本資本主義史 正村 公宏
 逐条解説 郵政省就業規則 郵政省人事局
 西洋のなくなる日 篠沢 秀夫
 招かれざる客たち ドメニコ・ラガナ
 素顔のヨーロッパ 桑原 武夫
 女性と知的創造
 シモーヌ・ド・ボーヴォワール
 老い 上, 下 シモーヌ・ド・ボーヴォワール
 アメリカを知る事典 引野 剛司 也
 地方債統計年報 4, 5 (財)地方債協会
 両洋の眼 幕末明治の文化接触 吉田 光邦
 山田 盛太郎著作集 1~3 山田 盛太郎
 メシの食える経済学 邱 永漢
 戦後日本資本主義史 正村 公宏
 近代経済学古典選集 9-1 経済学講義 I
 ウィクセル
 新版 労働基準法の基礎〔実用編〕
 青木 宗也 他
 改訂版 詳解職業性疾病の認定基準
 労働省労働基準局補償課
 改訂版 雇用保険法
 労働省職業安定局雇用保険課
 自衛権 新世紀への視点 筒井 若水
 国籍法における男女平等 二宮 正人
 労働組合法 山口 浩一郎
 パートタイマー白書 産業労働調査所
 日本の税金 和田 八束
 財政理論 石 弘光
 福祉政策と財政 藤田 晴
 国債統計年報 昭和57年度 大蔵省理財局
 1983年国連世界経済報告
 外務省国際連合局
 資料集 財界の都市改造戦略
 自治体問題研究所
 郵貯は崩壊する 加藤 寛 他
 国の予算 昭和58年度予算・昭和57年度補
 正予算 財政調査会
 Zwangsvollstreckungs und Konkursrecht 16.
 Aufl. O. Jauernig
 Zivilprozessrecht 2. Aufl. O. Jauernig
 BGB. Allgemeiner Teil 18. Aufl.
 H. Köhler
 Sachenrecht 19. Aufl. F. Lent 他
 Deutsches Staatsrecht 25. Aufl.
 T. Maunz 他
 Schuldrecht I. Allgemeiner Teil. 2. Aufl.
 D. Medicus
 Völkerrecht 2. Aufl. E. Menzel 他

Deutsches Privatrecht 9. Aufl.
 H. Mitteis 他
 Verwaltungslehre G. Püttner
 Strafverfahrensrecht 18. Aufl. C. Roxin
 Arbeitsrecht 3. Aufl. W. Zöllner
 Sozialrecht W. J. Gitter
 Konzernrecht 2. Aufl. V. Emmerich 他
 Römische Rechtsgeschichte 7. Aufl.
 G. Dalckeit 他
 Handelsrecht; ohne Gesellschafts und
 Seehandelsrecht 19. Aufl.
 K. H. Capelle 他
 Strafrecht II. ; Besonderer Teil 12. Aufl.
 H. Blei
 Strafrecht I. ; Allgemeiner Teil 18. Aufl.
 H. Blei
 Familienrecht 23. Aufl. G. Beitzke
 Wertpapierrecht 13. Aufl. W. Zöllner
 Verwaltungsrecht 1~3 H. J. Wolff 他
 Erbrecht 11. Aufl.
 H. Bartholomeyczik 他
 Allgemeine Staatslehre; Politikwissenschaft
 8. Aufl. R. Zippelius
 Gesellschaftsrecht 18. Aufl. G. Hueck
 再訂新版 労働組合法, 労働関係調整法
 労働省労政局労働法規課
 三訂新版 労働基準法 上, 下
 労働省労働基準局
 河上隆全集 21, 25 河上 隆
 岩波講座 基本法学 5 芦部 信喜 他
 世界政治ハンドブック 飯坂 良明 他
 日本の政治 京極 純一
 現代資本主義の世界構造 杉本 昭七
 南北問題の経済学 小野 二郎
 ジャパン・ショック リヒャルト・ガウル 他
 現代ヨーロッパ経済論 清水 嘉治
 日本の零細企業 辻 弥兵衛 他
 EC経済をみる眼 内田 勝敏 他
 英国病・ソ連病・日本病 ビーター ワイルズ
 驚くべきスイス銀行 ジャン・ジグレル
 豊かさへの挑戦 G. ミュルダール
 ルーピング・イット R. C. イェーガー
 飢えない国スイス 高橋 俊一
 戦後の世界経済 松井 清
 第三世界と経済学 高橋 彰 他
 日本企業の海外進出 北沢 洋子
 ポケット日本経済辞典
 神戸大学日本経済研究会

Dictionary of Legal, Commercial and Political Terms 1, 2 Dietl 他
現代和英・英和会計税務法律用語辞典

監査法人栄光会計事務所国際部
企業会計規則集 大蔵省証券局企業財務課
最新監査論 高田 正淳
第六次改訂 財産評価の実務

国税庁資産税課 他
会計全書 昭和50, 58年度版 渡辺 正一
税務経理ハンドブック 50, 54, 56,
58年度版 日本税理士会連合会
新版 会計法規集 中央経済社
経理不正行為の見つけ方・防ぎ方

日本公認会計士協会東京会
監査の技術 野々川 幸雄
内部統制の展開 小西 一正
会計原則逐条詳解 高村 剛雄
原価計算論研究 平林 喜博
三訂版 原価計算 岡本 清
実証分析 企業の環境適応 高田 馨

現代企業評価論 清水 龍瑩
新訂 実践連結財務諸表 白島 栄一 他
経営監査の実務 渡辺 二郎
新版 会社法 蓮井 良歌
経営原価計算論〔増補版〕 櫻井 通晴
現代株式会社会計〔改訂版〕 會田 義雄
新企業会計原則精解 宇南山 英夫
和英用語対照 税務・会計用語辞典〔二訂版〕

渡邊 敬之
原価計算発達史 小林 健吾
精選実例 税務解釈事典 佐藤 清勝 他
五訂版 ケース別勘定科目便覧

山本 清次 他
アメリカ会計学会 会計理論及び理論承認

染谷 恭次郎
新版 現代の内部監査 青木 茂男
時価評価論 不破 貞春
粉飾経理〔二訂版〕 近澤 弘治
時価主義会計論 木村 重義
SHM会計原則 T. H. Sanders 他
時価会計：測定と効用

ジョージ・M・スコット
企業会計原則を裁く 沼田 嘉穂
貸借対照表論 山下 勝治
費用管理論〔増補版〕 溝田 一雄
増訂 A・A・A 会計原則 中島 省吾 訳
実態会社管理会計 會田 義雄
差別への視座 今野 敏彦
環境会計 阪本 安一

A, A, A, 原価・管理会計基準 櫻井 通晴 訳
監査論研究 森 實
国際会計 染谷 恭次郎
事業部制会計 青木 茂男
会社決算と監査上の問題点 矢沢 惇 他
アメリカ公認会計士協会 リース会計

古藤 三郎 訳
価格変動会計論 森田 哲彌
税務監査の基礎理論 長谷川 忠一
税務重要計算ハンドブック

日本税理士会連合会
戦後地方行財政資料 第3, 4巻, 別巻1

地方行財政制度資料刊行会 他
現代財務諸表論 宇南山 英夫
新版 昭和56年版 法人税の計算と理論

井上 久彌
貸倒損 海野 安美
会計学精理 黒澤 清
親子会社の税務と会計

監査法人誠和会計事務所
法人税質疑応答事例集

関東信越国税局法人税課
会社役員のための商法・税法・会計学
石田 八郎

商法会計の実務 改訂版
監査法人太田哲三事務所
税務調査に応ずるための証拠資料の作り方
奥住 壽

改正商法による会計監査人監査の実務
村山 徳五郎
事業報告書の国際比較 大矢地 浩司 他
新版 監査役ハンドブック 商事法務研究会
会計学辞典 黒澤 清 他
Accounting in an Inflationary Environment
R. W. Scapens

わかりやすい管理会計 渡辺 金愛
簿記精説 上, 下 片野 一郎
使途不明金 海野 安美
親子会社関連会社の経理と税務〔増補改訂〕

山本 清次
職業会計人のマネジメントサービス入門
エドワード・L・サマー 他

改正 株式会社法解説 北沢 正啓
簿記会計実務ハンドブック 増補版 広田 潤
会社四季報 54年3集夏 東洋経済新報社
日経会社情報 季刊 '83-III

日本経済新聞社
現代と史的唯物論 浜林 正夫
最高裁判所判例解説 民事篇 昭和54年度
(財)法曹会

自然科学(400)

現代人と疲労 小木 和孝
 自分でできる健康管理 額賀 厚徳
 フット環境科学 理論と実際 ケネス・ワット
 驚異の玄米酵素 安達 充
 バカ・ケチ・ナマケは酢を飲まない 長田 正松
 最新実践栄養学講座 1~13, 付巻, 別冊総目次 実践栄養科学研究所
 Biology; a functional approach 3, ed. M. B. V. Roberts
 Biological science; an inquiry in to life 4, ed. Biologie heute S-2 W. Miram
 岩波講座 精神の科学 別巻, 総目次 飯田 真 他

工学及び家政学(500)

Droit de la propriété industrielle 2, et A. Chavanne
 八神製作所111年史 社史刊行委員会
 土地区画整理の研究 岩見 良太郎
 Gewerblicher Rechtsschutz 4, Aufl. H. Hubmann
 生活の質 K. コーツ
 メジャー・現代の石油帝国 宮嶋 信夫
 インテリア コーディネーター読本 小野 隆 他

産 業(600)

創立20周年記念誌 ミリオン貿易(株)
 株式価格の基礎理論 住ノ江 佐一郎
 証券理論の展開 住ノ江 佐一郎
 老人の交通安全 日本交通安全教育普及協会
 農政思想史の研究 小林 政一

芸 術(700)

エディット・ピアフ ジャン・ノリ
 世界映画名作全史 戦前篇、戦後篇、現代篇 猪俣 勝人
 日本の美術 Ⅱ 215~217

語 学(800)

スタンダード英語講座 1~3, 6, 9, 11

別宮 貞徳 他
 最近日本語事情 稲垣 吉彦
 現代外来語考 石野 博史
 オックスフォード アメリカ英語中辞典 A. S. Hornby
 講座・学校英文法の基礎 1, 2, 4, 5, 7, 8 成田 義光 他
 レポートニッポン BBC英語放送を聴く ボップ・フレンド
 ザ・ディベート I, II 金子 節也
 スウェーデン語小辞典 松下 正三 他
 アラビア語小辞典 内記 良一
 ルーマニア語小辞典 直野 敦
 ベルシャ語小辞典 中村 公則
 最新版 韓日辞典 安田 吉実 他
 新英和中辞典 第二版 岩崎 民平 他
 新英和大辞典 研究社
 最新フランス語大辞典 山本 直文 他

文 学(900)

日本の近代小説 篠田 一士
 続 日本の近代小説 篠田 一士
 マルジナリア 遊澤 龍彦
 相対幻論 吉本 隆明 他
 文学における原風景 奥野 健男
 ふらんす笑談 T. ベルナル
 猫長屋白書 八鍬 真佐子
 日本の面影 山田 太一
 その細き道 高樹 のぶ子
 昨日、悲別で 倉本 聰
 カンガルー日和 村上 春樹
 女の胸算用 上坂 冬子
 手とぼしの記 宮尾 登美子
 彩り河上、下 松本 清張
 評論 永井 荷風 中村 光夫

ベスト・セラーズ 4月10日調べ

(東販週報4月26日号)

名古屋 星野書店
 1位 プロ野球殺されても書かずにいられない 板東 英二
 2位 本日は悲劇なり 赤川 次郎
 3位 零戦燃ゆ<熱闘篇> 柳田 邦男

| | | | | | |
|----|------------------|---------------|----|-------------------|---------|
| 4位 | ゆとりの「財テク」 | 金森 英樹 | 5位 | ME人工毛植法 | M. ルーカス |
| 5位 | 4週間でシワがとれる | 大槻 彰 嶋村 順子 | 大阪 | | 旭屋アベノ店 |
| 東京 | | 紀伊国屋書店 | 1位 | やっぱり鼻はこれで治せる | 西田 達弘 |
| 1位 | アムウェイビジネス | チャール, P. コン | | | 賀田野 勇 |
| 2位 | 魔界行 第一次復讐編 | 菊地 秀行 | 2位 | 肥減遊姿の秘密 | 大槻 彰 |
| 3位 | はてしない物語 | M. エンデ | 3位 | この自然治癒力がゲンゲン病気を治す | 大槻 彰 |
| 4位 | わが子を合格させるスパルタ受験術 | 河端 真一 | 4位 | 菩薩の杖 | 堀田 和成 |
| | | | 5位 | ザ・リーダー | 小林 剛 |

お 知 ら せ

1 学生諸君のレポート作成に際して

前期定期試験が近づいてきました。

例年のように、レポートによる課題提出の科目も多いと思われます。

図書館では、可能な限り、レポート作成のための資料を準備したいと考えていますので、学生諸君は、大いに利用して下さい。

2 臨時開館について

前期定期試験にのぞんで、図書館の臨時開館を下記の要領で行ないます。

開館日 7月20日(土)

7月27日(土)

9月13日(金)

9月14日(土)

9月17日(火)～

9月21日(土)

9月24日(火)

開館時間 午前8時30分～

午後8時50分

3 夏休み中の長期貸出について

夏休みの長期貸出を下記の要領で行ないます。普段読めない長篇物や、難解な本に挑戦してみてもどうでしょうか。

記

貸出期間 7月25日(水)～

10月 1日(火)

貸出冊数 5冊以内